



S.Suzuki

サマーマイルシリーズ

## THE KEISEI HAI AUTUMN HANDICAP

## 第70回 京成杯オートムハンデキャップ (GⅢ)

1着 2着 3着 4着 5着  
本賞 41,000,000円 16,000,000円 10,000,000円 6,200,000円 4,100,000円  
付加賞 560,000円 160,000円 80,000円



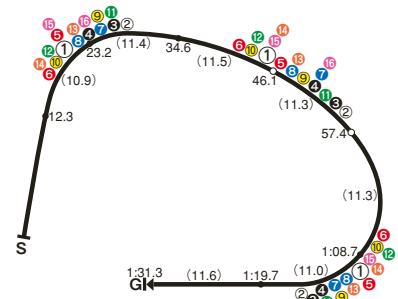
レース映像は  
こちらでご覧  
いただけます。

3歳以上、2024.8.31以降2025.8.31まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬  
負担重量 ハンデキャップ

2025.9.6 中山 晴・良 芝1600m (国産) (特指)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	①	ホウオウラスカズ	牝7	52	木幡巧也	1:31.3	10-11-10	<b>33.1</b>	456(±0)	89.5⑩	高木 登(美浦)	99
2	③	ドロップオブライイト	牝6	56	松若風馬	¾	2-2-2	33.9	446(+8)	20.4⑩	福永祐一(栗東)	105
3	⑦	コントラボスト	牡5	56	丸山元気	クビ	4-4-5	33.6	466(-4)	6.7②	菊沢隆徳(美浦)	105
4	④	ダイシンヤマト	牡5	56	岩田康誠	クビ	6-4-3	33.7	506(-10)	7.5③	戸田博文(美浦)	104
5	⑤	ニシノスーベニア	牡6	56	大野拓弥	クビ	10-10-10	33.4	522(-14)	10.7④	上原博之(美浦)	
6	⑥	ジュノンオレンジ	牝5	54	富田 暁	クビ	4-7-5	33.7	474(+4)	16.1⑨	長谷川浩大(栗東)	
7	⑧	シヴァース	牡4	56	内田博幸	クビ	8-8-8	33.6	460(+2)	11.2⑤	友道康夫(栗東)	
8	②	アスコルティアーマ	牝5	53	津村明秀	アタマ	1-1-1	34.3	456(-2)	18.2⑨	林 徹(美浦)	
9	⑤	ダシット	牡6	56	菅原明良	1	10-11-12	33.5	470(-2)	66.8⑧	中川公成(美浦)	
10	⑩	カラマティアノス	牡3	55	石川裕紀人	ハナ	13-14-14	33.3	470(+8)	12.5⑥	栗村 武(美浦)	
11	⑪	エリカエクスプレス	牝3	54	戸崎圭太	アタマ	2-3-3	34.1	462(+6)	<b>2.8①</b>	杉山晴紀(栗東)	
12	⑨	ムーンプロープ	牝5	50	横山琉人	¾	8-8-8	34.0	496(±0)	217.9⑨	宮地貴裕(栗東)	
13	⑭	タガノエルピーダ	牝4	54	団野大成	2	6-4-5	34.5	482(+18)	13.3⑦	斉藤崇史(栗東)	
14	⑬	タイムトゥヘヴン	牡7	56.5	柴田善臣	クビ	15-11-12	34.1	484(-6)	12.9⑦	戸田博文(美浦)	
15	⑫	キタウイング	牡5	51	丸田恭介	½	13-14-14	33.8	460(+4)	134.6⑧	小島茂之(美浦)	
16	⑥	アサヒ	牡6	54	菊沢一樹	1	15-16-16	33.9	508(±0)	188.8⑧	金成貴史(美浦)	

単勝①8,950円(13<sup>1</sup>/<sub>2</sub>) 複勝①1,670円(13<sup>1</sup>/<sub>2</sub>) ③600円(11<sup>1</sup>/<sub>2</sub>) ⑦250円(2<sup>1</sup>/<sub>2</sub>) 枠連①-②3,730円(20<sup>1</sup>/<sub>2</sub>)  
馬連①-③51,340円(75<sup>1</sup>/<sub>2</sub>) ワイド①-③11,450円(75<sup>1</sup>/<sub>2</sub>) ①-⑦6,480円(62<sup>1</sup>/<sub>2</sub>) ③-⑦2,170円(29<sup>1</sup>/<sub>2</sub>)  
馬単①-③107,070円(155<sup>1</sup>/<sub>2</sub>) 3連複①-③⑦68,130円(211<sup>1</sup>/<sub>2</sub>) 3連単①-③⑦934,100円(1,591<sup>1</sup>/<sub>2</sub>)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m  
34.6 - 46.1 - 57.4 45.2 - 33.9

### アラカルト

- ・木幡巧也騎手は京成杯オートムH初勝利。J R A重賞はミライヘノツバサで制した20年ダイヤモンドSに続く通算3勝目
- ・高木登調教師は京成杯オートムH初勝利。J R A重賞は本年初勝利、通算11勝目
- ・ディーピンパクト産駒はJ R A重賞通算297勝目
- ・7歳馬の勝利は15年フラアンジェリコに続く通算2回目
- ・牝馬の勝利は24年アスコリビチューノに続く通算21回目
- ・単勝8,950円は同式別における本競走の最高払戻金額
- ・コントラボストの田辺裕信騎手は第6競走での落馬負傷のため丸山元気騎手に変更

# ホウオウラスカース *Ho O Las Cases*

牝 黒鹿毛 2018.5.18生  
北海道新ひだか町 岡田スタッド生産  
馬主・小笹芳史氏 美満・高木登麿舎  
馬名意味・冠名+人名より

ビーコンターンGB系 F6-e

ディーブインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛 1986	Halo Wishing Well
	ウインドインハーヘアIRE 鹿毛 1991	Alzao Burghclere
ビーコンターンGB Beacon Tarn 鹿毛 2010	Shamardal 鹿毛 2002	Giant's Causeway Helsinki
	Baize 栗毛 1993	Eficio Bayonne

5代までのインブリードなし

## INTERVIEW

岡田牧雄代表(岡田スタッド)

### 若い頃から期待していた馬です

生産馬2頭出しでしたが、2着のドロップオブライトを中心にレースを見ていたので、周りから「おめでとう」と言われて本馬が勝ったことに気づきました。ディーブインパクト産駒で育成時代も優等生、若い頃から期待していた馬です。なかなか勝てない時期もありましたが、7歳での重賞勝利によって私が目標とする馬づくりを具現化してくれたことが嬉しいです。



Y.Hamano

父はディーブインパクト。シャフリヤールと同世代にあたる本馬は3歳時に1勝クラス戦、2勝クラス特別を連勝した後、3勝クラスでは長い足踏みが続いた。それでも今年4月のセンテナール・パークSで3年9カ月ぶりの勝利を挙げて上昇気流に乗り、昇級3戦目のこの日は「自分の脚は確実に使ってくる」(高木登調教師)長所を存分にアピール。軽ハンデも追い風に父譲りの鋭い決め手を冴え渡らせて周囲の低評価(3番人気)を覆し、7歳の秋に嬉しい重賞初制覇を果たした。

## 父ディーブインパクト

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央、仏14戦12勝(ジャパンC<sup>G1</sup>、日本ダービー<sup>G1</sup>、皐月賞<sup>G1</sup>、菊花賞<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、天皇賞(春)<sup>G1</sup>、宝塚記念<sup>G1</sup>)、年度代表馬2回、07年から供用、19年死亡。12~22年日本リーディングサイヤー。10~14、16~21年日本2歳リーディングサイヤー

〔代表産駒〕コントレイル、ジェンティルドンナ、グランアレグリア、シャフリヤール、ロジャーバローズ、ウグネリアン、マカヒキ、キズナ、ディーブフリランテ、サトノダイヤモンド、ミッキークイーン、ディーマジェスティ、アルアイン、フィエールマン、ワールドプレミア、アスクビクターモア、ラウスオンリーユー、シンハライト、ハーブスター、マルセリーナ、アユサン(以上国内クラシック勝ち馬)

## 母ビーコンターンGB

英20戦2勝。16年輸入

ホウオウエンジェル(17 牝父Dark Angel)持込 中央32戦0勝、地方14戦3勝  
**ホウオウラスカース** 本馬(18 牝父ディーブインパクト)中央32戦5勝(京成杯オートムH<sup>Gm</sup>、センテナール・パークS、月岡温泉特別)獲得総賞金129,778,000円

アイキャンドウィット(19 牝父ディーブインパクト)中央19戦2勝(高湯温泉特別) 〇

ホウオウスーベリア(20 牝父スクリーンヒーロー)中央21戦3勝(鹿野山特別、二本松特別) 〇

ユーキャンドウィット(21 牝父エビファネシア)中央8戦0勝、地方1戦1勝  
ホウオウアーネスト(22 牝父キズナ)中央10戦0勝

(23 牝父キタサンブラック)

(24 牝父マインドユアビスケッツUSA)

(25 牝父イクイノックス)

## 祖母Baize

イギリス産 北米、英5勝(モールコームS・英<sup>G3</sup>3着)

**シンハリーズGB**(02 牝父Singspiel)北米、英3勝(デルマーオークス・米<sup>G1</sup>)、輸入繁殖牝馬、**シンハライト**(オークス<sup>G1</sup>、ローズS<sup>Gm</sup>)、**アダムスビーク**(ラジオNIKKEI杯2歳S<sup>Gm</sup>)、**リラヴァティ**(マーメイドS<sup>Gm</sup>)の母

**ドックオブザベイ** Docofthebay(04 騊父Docksider)英、首8勝(ゴールドンローズS・英L、レディールフランナS・英L2着)

**キッドエドワード** Kid Edward(07 牝父Singspiel)北米2勝(ラホヤH<sup>G2</sup>2着) 〇  
ビーコンターンGB(10 前出)

## キャリア豊富な牝馬2頭が波乱を起こす

昨年までの紫苑S(今年は2日目の日曜日に移設と入れ替える形で、秋開催の初日に組まれた京成杯オートムHは波乱の決着となった。同舞台のフェアリースを完勝、桜花賞でも一番人気に推された3歳の快足牝馬エリカエクスプレスをはじめとする上位人気馬は揃って敗れ、1、2着を占めたのは2桁人気の伏兵。なかでもハンデ52kgの7歳牝馬ホウオウラスカースが、レース史上の単勝最高配当89・5倍を記録して勝利を飾った。

好スタートを切ったドロップオブライトを内からかわし、主導権を握ったアスコルティアーモは緩みのないラップを刻んでレースを先導。エリカエクスプレスは3番手に腰を落ち着け、折り合いに専念する。2番人気に支持されたタービー卿チャレンジトロフィーの2着馬コントラポストがその直後に抜け、サマーマイルシリーズ優勝の可能性を残す1頭、3番人気のダイシンヤマトも好位の内を追走。前で運んだ上位人気馬に対し、ホウオウラスカースの木幡巧也騎手は中団のインで脚を溜め、仕掛けのタイミングを窺った。迎えた直線、2番手から早めに先頭に並びかけたドロップオブライトが坂の上りで逃げ馬を競り落とす。そこへ猛然と襲い掛かってきたのがホウオウラスカースだった。外には持ち出さず、馬群の狭いスペースを捌いて追い込んだ木幡騎手のリードに迎え、鋭い決め手を披露。先に抜け出したドロップオブライトをかわし、一気に先頭へ突き抜けた。

父はディーブインパクト。シャフリヤールと同世代にあたる本馬は3歳時に1勝クラス戦、2勝クラス特別を連勝した後、3勝クラスでは長い足踏みが続いた。それでも今年4月のセンテナール・パークSで3年9カ月ぶりの勝利を挙げて上昇気流に乗り、昇級3戦目のこの日は「自分の脚は確実に使ってくる」(高木登調教師)長所を存分にアピール。軽ハンデも追い風に父譲りの鋭い決め手を冴え渡らせて周囲の低評価(3番人気)を覆し、7歳の秋に嬉しい重賞初制覇を果たした。